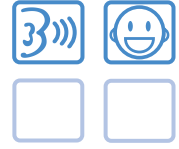


2-10

わたしの学校



活動

がっこう なか あんない
学校の中を案内する。

かたち



時間

せつめい編

- 文-03 Vます
- 文-04 NはNにあります/います
- 助-05 の
- 助-07 に(場所)
- 語-04 ここ/そこ/あそこ

談話の技術

- 会話(かいわ)を始める(あのを)
- 確認(かくにん)する(～ですか)
- あいづちをうつ(ああ、～ですか)
- 会話を終わる(かいわを) (どうもありがとうございました)

準備するもの

じっさい こうないず
実際の校内図

使うことば

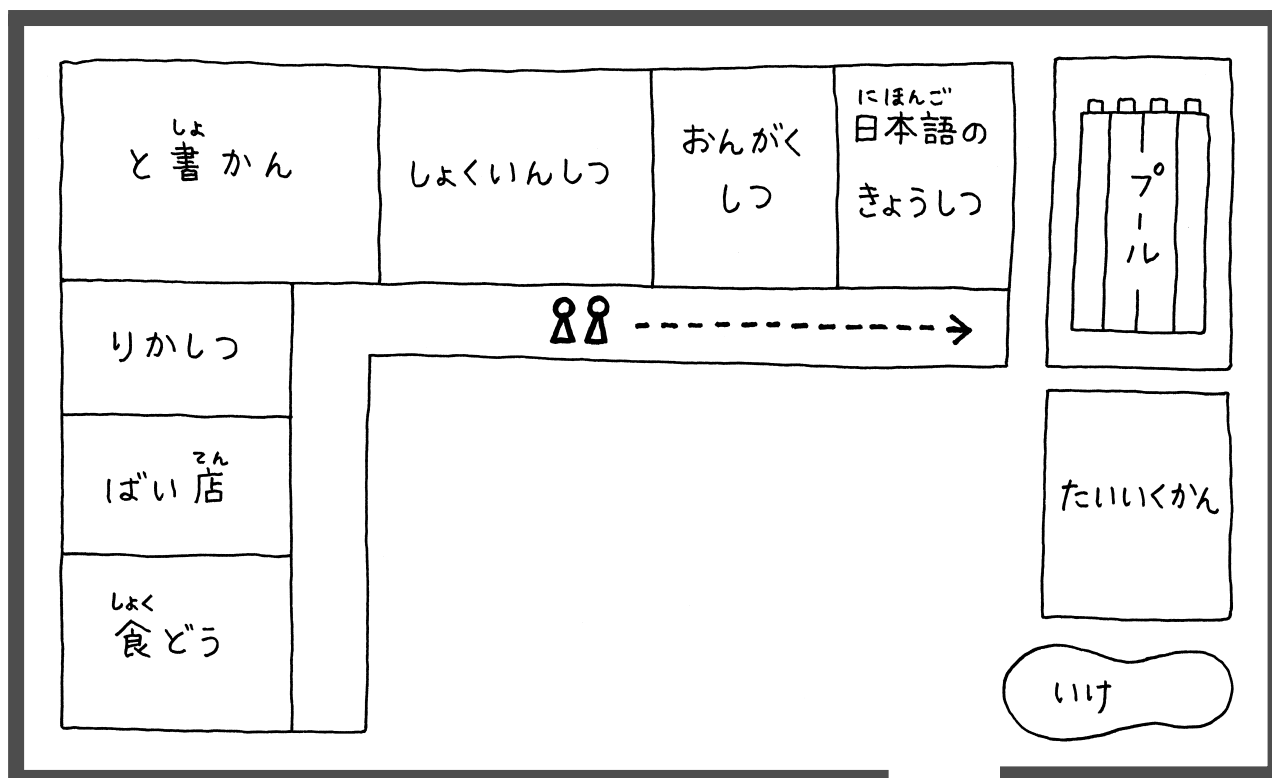
(わたし) 学校(がっこう)、教室(きょうしつ)、音楽室(おんがくしつ)*、理科室(りかしつ)*、
図書館(としょかん)、事務室(じむしつ)*、体育館(たいいくかん)*、池(いけ)、グラウン
ド(ばいてん)*、売店(しょうどう)*、食堂(しょくどう)、プール、ここ、そこ、
あそこ、どこ、となり、前(まえ)、日本語(にほんご)、ある、
ああ、あのを、いいえ

どうもありがとうございました

手 順

1. 校内図(こうないず)を使って、学校(がっこう)の中の部屋(なか)の名前(なまえ)や位置(いち)の言い方(い)を確認(かくにん)する。
 2. 学習者(がくしゅうしゃ)がそれぞれ自由(じゆう)に学校(がっこう)の図(ず)をかく。
 3. ペア(ひとり)になり、1人(ひとり)が案内役(あんないやく)、もう1人(ひとり)がお客さん(きやく)になる。案内役(あんないやく)が自分の学校(がっこう)でお客さん(きやく)を案内(あんない)するということにする。
 4. 途中(とちゅう)でお客さん(きやく)役(やく)は「日本語(にほんご)の教室(きょうしつ) / 図書館(としょかん) / 食堂(しょくどう)...はどこ(どこ)にありますか。」と質問(しつもん)する。案内役(あんないやく)はそれぞれの場所(ばしょ)について「～は、そこ(そこ) / あそこ(あそこ)です。」と答(こた)える。
- 2の図(ず)を使って、2人(ふたり)の人の代わり(ひと)に2本(ほん)のペン(ペン)を進ませながら<モデルテキスト>のように会話(かいわ)をする。

モデルテキスト



A: ここは しょくいんしつです。……

ここは おんがくしつです。……

B: あのう、^{にほんご}日本語の きょうしつは どこに ありますか。

A: ^{にほんご}日本語の きょうしつですか。そこです。

B: ああ、そこですか。

A: ここは プールです。……

B: あのう、^{しょく}食どうは どこに ありますか。

A: ^{しょく}食どうですか。あそこです。……

B: どうも ありがとうございます。

A: いいえ。

(A: ^{あんないやく}案内役、B: ^{きゃく}客)

バリエーション

(1) 学校説明をする。

<バリエーションの手順>

1. 学習者はノートに校内図を作る。
2. ペアになり、1人が学校について説明をする。(「～に～があります」の文型を使う。)<モデルテキスト>の会話をする。説明が終わったら、聞き手は学校について質問する。(「～さんの学校に～がありますか。」「～はどこにありますか。」など。)

<バリエーションのモデルテキスト>

案内役：ここに図書館があります。
ここに池があります。
ここに理科室があります。

客：あのう、リンさんの学校に売店がありますか。

案内役：はい、ここです。

先生へ

- ・ この練習では、話し手と聞き手が同じ領域にいる状況として「ここ/そこ/あそこ」を使い分ける。
- ・ 「～はどこにありますか。」の答えは「～です。」でも「～にあります。」でもよい。(「せつめい編」の「文-01 Nです」を参照。)
- ・ 教室の名前や使い方は国によって異なるので、その国に合わせて、変えるとよい。
- ・ 校内図を作るときは、学習者に自分の好きなように好きなものをかき入れるようにすすめる。
- ・ 自分の学校にある部屋の特徴や学校でできることなどを母語で説明して、本当にある学校らしくしてもよい。
- ・ 図を使うのではなく、実際に学校案内をしてもよい。